



平成29年10月27日

**第26回ペスタロッチー教育賞
表彰式・記念講演、記者会見のご案内**

広島大学大学院教育学研究科とペスタロッチー教育賞実行委員会は、優れた教育実践を行っている個人・団体を顕彰する第26回ペスタロッチー教育賞の表彰式及び記念講演並びに受賞者の記者会見を、平成29年12月7日（木）に東広島キャンパスで開催しますのでご案内いたします。

記

受賞者：中本 ^{なかもと} 忠子 ^{ちかこ} 氏（NPO 法人 食べて語ろう会 理事長）

表彰式・記念講演

日 時：平成29年12月7日（木）12:50～14:20

場 所：広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室

後 援：もみじ銀行、中国新聞社

プログラム：

- ・主催者挨拶 ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
教育学研究科長 小山正孝
- ・祝 辞 もみじ銀行頭取 小田宏史氏
- ・表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- ・記念品贈呈 中国新聞社代表取締役社長 岡谷義則 氏
- ・記念講演 ペスタロッチー教育賞受賞者 中本忠子 氏

記者会見

時 間：記念講演終了後、14:30～（15分程度）

場 所：広島大学大学院教育学研究科 第二会議室

※ これまでの受賞者一覧等は、本学ホームページをご覧ください。
（大学トップページ → 大学院教育学研究科・教育学部のページ → ペスタロッチー教育賞）
<http://hiroshima-u.jp/ed/pestalozzi>

【お問い合わせ先】

本賞・受賞者に関すること

広島大学大学院教育学研究科教育学講座 三時・吉田
TEL : 082-424-6737/6742

表彰式・記念講演に関すること

広島大学教育学研究科支援室（総務・人事担当） 永富・小濱
TEL : 082-424-4684/5605

第26回ペスタロッシー教育賞受賞者に、中本 忠子（なかもと ちかこ）氏が選ばれましたので発表いたします。

【第26回ペスタロッシー教育賞 受賞者】

NPO 法人 食べて語ろう会 理事長
中本 忠子（なかもと ちかこ）

【略歴】

1934年広島・江田島生まれ。3人の母。夫を病気で亡くした後、女手一つで子どもたちを育てた。1980年に中学校のPTA役員になり、警察に補導された生徒らを忙しい保護者の代わりに迎えに行くようになったことをきっかけに、保護観察処分になった少年の更生を助けるために面接指導等を行う、法務省所管の非常勤職員である「保護司」になる。2年後にある少年との出会いから、自らの生活費の中から費用を捻出し、現在の活動へとつながる「親から食事を与えられていない子ども」に「無償」で手料理を振舞う活動を開始する。1992年ごろから自宅だけではなく、地域住民と子どもたちの交流の場を提供するために公民館で食事会を開催。2003年にはこの食事会が「食べて語ろう会」という名称になり、月二回の定期開催となった。2015年8月に「食べて語ろう会」を今後も継続的に活動し続けていけるようにNPO法人とした。1998年からは中地区保護司会理事、2000年から2008年まで同会副理事を務める。また1982年から現在に至るまで更生保護女性会員として活動し、2002年から2009年までは中地区更生保護女性会会長を務めた。その間、広島保護観察所長表彰（1986年）、中国更生保護委員会委員長表彰（1990年）、法務大臣表彰（2001年）、瑞宝双光賞受賞（2007年）など、活動に関する数々の表彰を受ける。さらにこうした長年の活動が認められ、2014年に法務省保護局長特別感謝状受賞、2015年に公益財団法人「社会貢献支援財団」社会貢献者表彰、2016年に広島市民賞受賞、今年の4月には吉川英治文化賞を受賞した。

【受賞理由】

中本氏は30年以上にわたって広島市中区基町を拠点に、非行や虐待等、さまざまな理由から「居場所がない」と感じている子どもたちの更生を支え、彼らが「立ち直る」ための活動を実践されてこられた。今回はこの長年の活動が評価されての受賞となった。

「保護司」として活動していた中本氏が「食事の提供」を始めるきっかけとなったのは、一人の中学生との出会いであった。彼はシンナーを買う金欲しさに空き巣に入り、少年院に送られた少年であった。シンナーをやめられない少年に理由を聞くと「腹が減ったのを忘れられるから」という返事が返ってきた。その言葉に衝撃を受けた中本氏は、空腹に気がつかなかったことを詫言、その日から少年に手料理を振舞った。その少年はシンナーをやめると同時に、同じような境遇にいる友人を中本氏の自宅に連れてくるようになり、多くの「行き場のない子ども」が中本氏の自宅に集まるようになった。

こうして近所の方の助けを借りながら、他からの援助等受けずに自宅を開放して子どもたちに食事を提供する活動がスタートする。現在でも子どもや若者が1日10人から20人ほど訪れ、食卓を囲む。彼らは「ばっちゃん」（中本氏の呼称）に見守られ、立ち直るきっかけを得て巣立っていく。昨今、子どもの貧困が問題とされ、「子ども食堂」の存在が注目されているが、中本氏の自宅ではこれが30年以上も繰り返されている。25年ほど前から、自宅だけではなく、地域住民と「居場所のない」子どもたちを引き合わせることを目的に、公民館でも食事会を開いている。これがNPO法人「食べて語ろう会」のもとになった活動である。この食事会では子どもたちもみんなで準備を手伝うことで、社会で疎外感を持ちがちな子どもたちが地域の中で「役に立つ」ことができるのだと地域住民と子どもたち双方が実感できる体験を提供している。

18世紀スイスの思想家であり実践家であったペスタロッシーは、貧困や保護者の不在など、適切な養育を受けられない子どもたちが家庭的な雰囲気の中で育つことで、困難を乗り越えていく力を身につけることができると確信していた。中本氏の活動はこのペスタロッシーの理念を実現するものといえる。氏の長年の努力と功績に対し、第26回ペスタロッシー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。

受賞者 中本 忠子 氏

(NPO 法人 食べて語ろう会 理事長)



第26回ペスタロッチー教育賞 表彰式及び記念講演

- 日 時 平成29年12月7日(木) 12:50~14:20
表彰式 12:50~
記念講演 13:20~
- 場 所 広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室
(東広島市鏡山一丁目1番1号)
- 主 催 広島大学大学院教育学研究科, ペスタロッチー教育賞実行委員会
- 後 援 もみじ銀行, 中国新聞社
- 受賞者 中本 忠子 氏 (NPO法人 食べて語ろう会 理事長)

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶
ペスタロッチー教育賞実行委員会
委員長(広島大学長) 越 智 光 夫
広島大学大学院教育学研究科長 小 山 正 孝
- 3 祝 辞
もみじ銀行頭取 小 田 宏 史
- 4 表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッチー教育賞実行委員会
委員長(広島大学長) 越 智 光 夫
- 5 記念品贈呈
中国新聞社代表取締役社長 岡 谷 義 則
- 6 記念講演
ペスタロッチー教育賞受賞者 中 本 忠 子
- 7 閉会の辞

問合せ先

【本賞及び受賞者に関すること】

広島大学大学院教育学研究科 三時・吉田

TEL: (082) 424-6737・6742

【表彰式, 記念講演及び会場等に関すること】

広島大学教育学研究科支援室(総務・人事担当) 永富・小濱

TEL: (082) 424-4684・5605



広島大学

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室 広報部 広報グループ 行

第26回ペスタロッチー教育賞表彰式・記念講演、記者会見のご案内

<表彰式・記念講演>

【日時】 12月7日(木) 12:50~14:20

【場所】 広島大学大学院教育学研究科 L205 講義室

<記者会見>

【時間】 記念講演終了後、14:30~(15分程度)

【場所】 広島大学大学院教育学研究科 第二会議室

ご出席 **【表彰式・記念講演】** ・ **【記者会見】**

※お手数ですが、参加される項目に○をしてください。

ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____ (計 名)

電話番号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、12月6日(水) 12時までにご連絡願います。